

「まあ……奥さんを風呂に沈めるのがいややっちゅうんやったら……ま
グ口漁船か……宝くじでも当てることぞんざい」「宝くじ……？ わか
りました。おおきに！(ガサゴソと)……えくと、うん、これや……。お
おっ！ おおっ！」「なに？ どないしたん？」「お通、あたた、あたた！
宝くじ、当たった！」「ええ？！ なんぼ？ なんぼ当たったん？」「これが
馬脚を現すつちゅうやっちゅう」「え？」「お通敗れたり……。おまの飯病、
しかと見せてもらった。いずれもこの武蔵をとどめおかんとするものであつた
な……」「……。ふん……。バレちゃあしかたねえやね。確かにアタイは娘
たちを武家奉公といつわつて南蛮人に売り渡したさ。それもこれも泉州屋の差
し金だつたんだよ。アタイだつて生まれるときからこんなワルだつたわけじゃ
ない。お父つあんさえ飲んだくれでなかつたら。お母さんは労咳にかかつち
まつて……。身を売るしか生きる道はなかつたんだよ。最初はシジミを売つて
ただけど、いくらにもなりやしない。すぐに売り物をこの体に変えたんだ
よ……。しかし、そんな生活、誰が好き好んでやるものかね。立ち直りたい。
たまたま知り合った人がビッグイシューと一緒に売ろうつて言ってくれて
ね……。だけどすぐにまた身を売つて……。ダンボールを集めて回つたこと
もあつただけどすぐに身を売り始めて……。」

(以下、前のお通のセリフにかぶせて)

「はら、もうらよつとでダマされるとこでしたわらおかげさんで助かりました」
「そんなことはどうでもエエ。ワシはとれるところからとつた……。それだけの
こつちやう。それより、ムサシはん、肝心なこと忘れてるんぢやうか？」「肝
心なこと……。あつ！」武蔵は部長からの取材命令をすっかり忘れていたの
であつた。「えらいこと思ひ出しましたわ！ おおきに！ ほなまた！」「なに
シラコイこというとるんや！ そんなんぢやう！ 借金かえさんかい！ ワ
シは地獄まで追いかけるんぢやい！」